



スタート直前、やる気十分なランナーたち



選手宣誓



物産展



ウォーキングの部ゴール付近



五木ひろしさんからのビデオメッセージ



竹波給水所



スターターを務めるレギュラーのお2人

第38回美浜・五木ひろしふるさとマラソン

5月10日に、第38回美浜・五木ひろしふるさとマラソンが丹生特設会場を発着点とした海岸線コースで開催され、全国各地から2,073人のランナーやウォーカーが参加しました。午前8時20分から始まった開会式では、町内外の来賓の方々に加え、ゲストとして昨年に引き続き2度目の参加となる小林祐梨子さん（2008年北京オリンピック5000m出場）、お笑い芸人「レギュラー」の2人から、参加者に激励の言葉が贈られました。

また、スケジュールの都合により、町の名誉町民である五木ひろしさんは参加いただけませんでした。参加者に向けてビデオメッセージを贈っていただきました。

大会は、1.5km、3km、10km、5kmそして、ウォーキングの順でスタート。早朝からは風光明媚な海岸線コースで健脚を競いました。

わたしの夢、語ります

竹長 ^{あん} 杏さん 美浜西小学校 6年(久々子)

私の笑顔でみんなを元気に

私の夢は、劇団四季俳優になることです。理由は、私が劇団四季を見に行った時の帰りに「すごかったね、また観たいね」と言った声がお客さんたちから聞こえて、こんなに人を笑顔にできる仕事がすごいなと思い、私もこの仕事でみんなを笑顔にしたいと思ったからです。

今私は、地元のスクールで歌やバレエの練習をしています。練習はとても厳しく、先生から注意されたことをノートに書いて、次の練習につなげています。また、地元のミュージカルにも参加していて、舞台上立つ時は、緊張するけれどとても楽しくて、私が笑顔で演じるとお客さんも笑顔になってくれて、うれしいです。

将来、劇団四季の舞台上に立ち、私の演技でお客さんみんなを笑顔いっぱいにするという目標を達成できるように頑張りたいです。



CONTENTS 目次 広報みはま2026年6月号

- 2 わたしの夢、語ります／表紙の写真／目次
- 3 第38回美浜・五木ひろしふるさとマラソン
- 6 まちウォッチング
美しい浜プロジェクトin水晶浜 / 早瀬子供歌舞伎 他
- 8 観光シリーズ Vol.2
- 9 みはまのまなび通信 Vol.12
- 10 情報BOX
「子ども・子育て支援金制度」が始まります / 小倉山山頂に公園ができました 他
- 18 ふるさと昔よもやま話169／文芸欄
- 19 美浜発電所の状況について
- 22 すこやか放送局
- 24 ハートフル広場
はじめてパースデー／町人さん／慶弔／人口の動き／広報クイズ
- 26 ぐらしのカレンダー

- 表紙の写真 -



第38回美浜・五木ひろしふるさとマラソンの10kmスタート直後の様子です。

当日は天候に恵まれ、絶好のマラソン日和となりました。

スタート直後、大勢のランナーが暑さに負けず懸命に駆け出しました。(関連第3頁)



消防団・防犯隊



選手誘導



駐車場



救護所



ゴール給水所

この大会は、町内の団体、事業所等を中心とした、総勢約400人のボランティアアスタッフの皆さんと共に大会運営を行っています。大会会場をはじめ、救護所や給水所、駐車場等、それぞれの持ち場で、さまざまな業務を行っていただきました。早朝よりご協力いただきました皆さん、本当にありがとうございました。

ランナーを支えた ボランティアの皆さん



10 kmの部弁天崎付近



1.5 kmの部ゴール付近



ゴールシーン



10 kmの部水晶浜付近



ゲストランナーの小林祐梨子さん

各部門優勝記録 (敬称略) ※夫婦の部は、同距離部門に夫婦でエントリーし、2人の合計タイムで競う

部門	参加者数(人)	優勝者	タイム(分・秒)	部門	参加者数(人)	優勝者	タイム(分・秒)
10km29歳以下男子	104	山本 道信 (大阪府)	35:08	5km40歳以上女子	55	稲葉 恵里子 (三重県)	19:03
10km30歳代男子	97	四辻 剛 (愛知県)	31:52	3km中学生男子	16	安藤 健 (滋賀県)	10:23
10km40歳代男子	138	大久保 利哉 (三重県)	34:17	3km中学生女子	8	高鳥 愛生 (小浜市)	11:49
10km50歳以上男子	274	押谷 昌之 (愛知県)	36:20	3km一般女子	59	倉谷 早希子 (若狭町)	10:57
10km39歳以下女子	25	安田 明日香 (兵庫県)	40:29	3km50歳以上男子	146	平野 義晴 (三重県)	10:29
10km40歳以上女子	73	井野 光子 (大阪府)	38:43	1.5km小学生男子	34	田中 遥真 (敦賀市)	5:51
5km29歳以下男子	135	嘉悦 響也 (愛知県)	15:52	1.5km小学生女子	21	田中 柚緒 (京都府)	5:44
5km30歳代男子	103	山口 潤 (愛知県)	16:19	5km夫婦の部※	18組	有田 昌史・由起子 (京都府)	42:23
5km40歳代男子	108	前田 賢二 (和歌山県)	16:50	10km夫婦の部※	24組	安田 慎・明日香 (兵庫県)	1:17:52 (時・分・秒)
5km50歳以上男子	165	余語 雄一 (三重県)	17:53				
5km39歳以下女子	25	荻野 紗和 (若狭町)	24:04				

Interview



ゴール救護所
若狭医療福祉専門学校の皆さん

初めてボランティアに参加しました。気温が高く心配でしたが、大きなトラブルもなく無事に終わって良かったです。将来に向けて、とても貴重な経験になりました。



1.5 km小学生男子の部で
3位に入賞した
今井 蒼佑さん(郷市)

最初は飛ばしすぎてしまったけど、最後まで順位を維持できてよかったです。来年も出場して、さらに上の順位を目指せるように頑張ります。



美浜消防団 第2分団長
長野 裕樹さん(菅浜)

参加者や観客が安心して楽しめるよう会場内のパトロールを行い、安全確保に努めました。大きなトラブルもなく、無事に大会が終わってなによりです。



5 km 29歳以下男子の部で
2位に入賞した
金森 晴音さん(佐田)

一昨年は優勝することができましたが、今年は最後に競り負けてしまい2位という悔しい結果となりました。来年はリベンジできるように頑張りたいと思います。

10 km男子の部で大会記録が更新されました!



10 km 30代男子の部に出場し
大会記録を更新した
四辻 剛さん(愛知県)

10 km 30代男子の部に出場した四辻剛さん(愛知県)が、31分52秒で男子10 km男子の部の新記録を樹立し、見事優勝されました。

これまで男子10 km男子の部の歴代記録は、第1回大会で記録された32分3秒でしたが、

今回の記録はそれを11秒上回る快挙となりました。

四辻さんは、「大会記録を更新できるとは思っていませんでしたので喜びを感じています。今後も大会に参加し、更なる記録更新を目指したいです。」と語っていました。



まちウォッチング atching

↓ 県の無形民俗文化財に指定されている「王の舞」



優雅で繊細な舞 弥美神社例大祭

5月1日と4日に、五穀豊穡を祈願する例大祭が弥美神社（宮代）で行われました。

4日には、河原市区と和田区の男衆が^{おおごへい}大御幣をめぐり激しくもみ合う「幣押し」や、色鮮やかな装束を身にまとった舞い手による「王の舞」から奉納された。

その後、躍動感のある獅子舞の奉納に、訪れた観客からは大きな歓声があがりました。

↓ 堂々とした演技を見せる子ども役者



子どもたちが演じ継ぐ 早瀬子供歌舞伎

5月3日に、日吉神社（早瀬）で山王祭礼が行われ、町の無形民俗文化財の「子供歌舞伎」が奉納されました。

当日は、午前8時から曳山が区内を巡行。日吉神社前に着くと、化粧を施しきらびやかな衣装をまとった子ども役者による「寿式三番叟」が上演されました。

凛とした子ども役者の演技に、観客からは盛大な拍手やおひねりが送られました。

↓ 漂着したごみを拾い集める参加者たち



美しい砂浜を守るために 美しい浜プロジェクトin水晶浜

4月19日に、美しい浜プロジェクトが水晶浜で開催されました。

このイベントは、町が取り組む美しい浜プロジェクトの令和8年度第1弾として開催され、竹波区民や企業、ボランティア、みはま応援クルー等、約200人が参加しました。

参加者たちは、全長450mの海岸を清掃し、漂着したプラスチック等、約29㎡（軽トラック約15台分）を収集しました。



↑ 清掃開始前



↑ 清掃終了後

↓ 国友鉄砲研究会による火縄銃演武



難攻不落の城で戦国体験 国吉城まつり

5月5日に、国吉城まつりが若狭国吉城歴史資料館周辺（佐柿）で行われました。

この催しは、国吉城とその周辺地域の歴史や自然を楽しんでもらおうと佐柿区や（一社）佐柿国吉100年プラン推進委員会等が主催しているものです。

当日は、火縄銃演武や甲冑体験が行われる等、会場内は多くの来場者でにぎわっていました。（関連第25頁）

↓ 佐田区による神輿



五穀豊穡を願って 織田神社例大祭

5月11日に、五穀豊穡を祈願する例大祭が織田神社（佐田）で行われました。

例大祭では、佐田区の小学生による「王の舞」や太田区による「獅子舞」等が披露されました。

最後には、山上区の裃姿の3人による「そっそ舞」が奉納され、力のこもった発声に、訪れた観客からは大きな拍手が送られました。

↓ 戸嶋町長（左）に目録を手渡す藤原女将（右）



町の観光発展のために 有限会社せくみ屋が町に寄付

4月15日に、町役場で有限会社せくみ屋から町に対する寄付金の贈呈式が行われました。

この寄付は昨年に引き続き2回目となるもので、同社ホテルが立地する自治体の観光振興に役立ててもらおうと、今回町に100万円を寄付されました。

贈呈式で、藤原秀美女将は「町の観光発展のために活用していただきたい」と話されていました。

↓ 日向湖周辺のごみを拾う参加者たち



三方五湖の環境を守る 三方五湖一斉清掃

4月19日に、三方五湖一斉清掃が行われました。この清掃活動は、三方五湖の環境と景観の保全を目的に、三方五湖保全対策協議会が主催したもので、町内の団体や企業から約150人が参加しました。

参加者は、各々の持ち場に分かれ、久々子湖や日向湖の周辺を清掃し、プラスチックごみや空き缶等、約4㎡（軽トラック約2台分）を収集しました。

第二次美浜町観光振興計画

スローガン：いってみたいから、ずっといたいへ。

前月号では、第二次美浜町観光振興計画が3月に策定したことの報告と、計画の位置づけやスローガン、基本方針、計画期間といった計画の概要を紹介しました。

今月号では、「なぜ、観光を進めるのか」ということや、観光による経済効果について紹介します。

なぜ、観光を進めるのか

町は、豊かな自然とここに暮らす人々の温かなおもてなしの心を宝物として大切に守り、つないできましたが、一方で、人口減少や担い手不足等により、地域のにぎわいが薄れていく不安も感じられるようになってきました。

これからも「住み続けたい」「子どもたちが帰ってきたい」と思える町であるためには、新たな活力を取り入れ、地域の価値を磨き上げることが不可欠です。私たちが観光に取り組む理由は、単に客数を増やすことではありません。観光とは、地域の魅力を見つめ直し、次世代へとつないでいく「まちづくり」そのものです。

観光を軸に、農林水産業や教育、地域活動等あらゆる分野が連携し、町全体で取り組むことで訪れる人が増え、稼ぐ力が生まれ、その結果、地域サービスの向上やにぎわいの創出につながります。

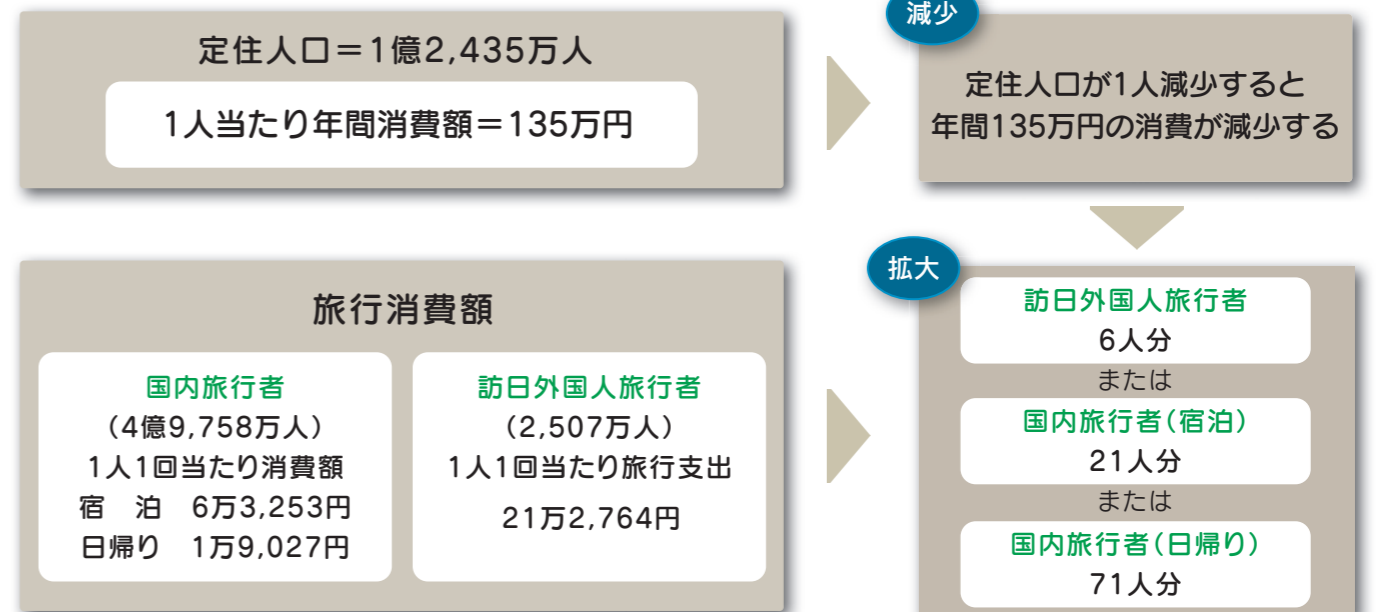
観光振興の目的は、住民の暮らしを豊かにし、持続可能な美浜町を実現することです。訪れる人にとっても、暮らす人々にとっても誇れる町となるよう、皆さんと共に進めていきます。



観光による交流人口増大がもたらす経済効果

下の図に示すとおり、定住人口1人当たりの年間消費額は、135万円とされています。この消費を観光で補うとすれば、外国人旅行者なら6人、国内の宿泊客なら21人、日帰り客であれば71人に相当します。

町では、人口減少を前提としながらも、子育て支援の充実や移住・定住等さまざまな対策を講じるとともに、観光による関係人口・交流人口の拡大を図り、観光を、地域経済の「エンジン」と位置付け、未来に向けた持続可能な観光地域づくりを「オールみはま」体制で進めていきます。



出典：観光庁「観光交流人口増大の経済効果(2023年)」

みはまのまなび通信

Vol.12

大学生が企画する 「次の一歩」

「みはまのまなび」を小中学生から高校生、そして大学生・社会人へとつなげていくため、今年3月、東京大学の学生3人が「美浜町にぎわい創出インターン」として1週間滞在しました。この滞在をきっかけに、今年度は大学生による実践的な活動がさらに町内で展開される予定です。今回は、その先駆けとして4月から活動をスタートした学生をご紹介します。



↑ 初めて美浜を訪れた今年1月の様子

石川県出身の大学2年生、

荒井日南子さん。彼女には「地方創生＝難しい挑戦」という先入観を壊したいという思いがありました。使命感に駆られるのではなく、大人が「自分のやりたいこと」を全力で楽しみ、周りもそれを楽しむ。そんな美浜町に流れるポジティブな連鎖を伝えたい。その想いを形にするため、彼女はサークルの新生たちに向けた「2泊3日新歓フィールドワーク」を企画。再び美浜の地を訪れました。



↑ 4月の新歓フィールドワークの様子

美浜で見つけた 新しい「地域」の姿



【参加学生たちの声】
佐久間 淳之介さん(山形県)
何でもある都会よりも、限られた環境だからこそ「これをやりたい」という主体的な活力が生まれると気づきました。

亀井 舞悠さん(千葉県)
授業で習う「地方」の堅苦しいイメージが、美浜で自由に活動する大人たちの姿を見て、ポジティブなものに変りました。

小泉 司さん(北海道)
地方創生のゴール「みんなの幸せ」とは具体的に何なのか。自分なりの答えを探すスタート地点になりました。

多田 龍之介さん(大阪府)
「東大生」というラベルではなく、1人の人間として向き合ってくれる美浜の方々の温かさに感動しました。

主催者の声

町での活動を通じ、地方創生の「一歩」となる実践的なフィールドワークを形にできました。この町に定着する道も、経験を全国で生かす道も。次の一歩を自ら選ぶための場を提示できたと考えています。



東京大学2年生 荒井日南子さん (石川県)

フリーコーナー Free space

4月からスタッフも新体制となり、子どもたちのワクワクをより一層育てていきます！
各スタッフの詳しい紹介はInstagramをチェックしてみてくださいね！



ふじもん ゆつてい もこ

お問い合わせ

放課後教室 学びコミュニティ Kai ☎ 050-5482-3342

まちづくり推進課 シナプスプロジェクト推進室 ☎ 32-6701



みはまシナプスプロジェクトって？



JR美浜駅～なびあすを舞台に、3つのテーマをもとに「美浜らしいにぎわい」を育てるプロジェクトが進行中。

- 1 学びと挑戦を育む "人づくり"
- 2 優しい回遊空間を創る "空間づくり"
- 3 共創の軸線を貫く "コンテンツづくり"



サンやKaiの活動も"人づくり"の一環。町の未来を、みんなで少しずつ形にいきましょう！

※お問い合わせ先
町観光誘客課 ☎32-6705



町ブランド
ホームページ



町ホームページ
第二次美浜町観光
振興計画掲載記事